

都における新型コロナウイルス 感染症の流行状況を踏まえた 臨時対応

東京 i CDC 専門家ボード
令和3（2021）年1月

目的

**重症化リスクの高い新型コロナウイルス
ウィルス感染症の陽性者への
迅速な対応により都民の命を守る**

方針

各保健所が管轄する 地域の実情に
合わせ、発生した陽性者の
重症化リスクに係る状況把握を優先

保健所で行う積極的疫学調査等の取扱い

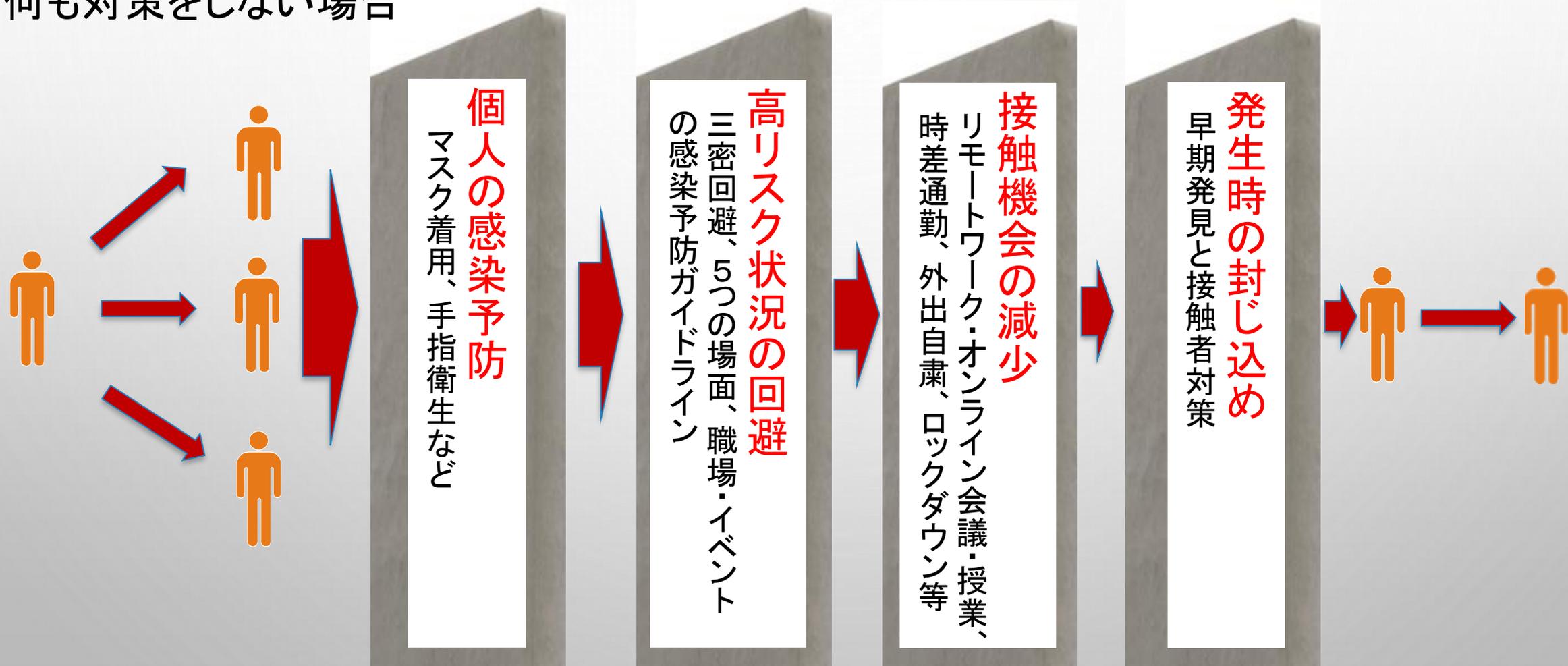
疫学調査及び健康観察については、「陽性者が重症化リスクのある者であるか、又は重症化リスクのある者が多数いる場所・集団※に直接帰属しているかの把握」に重点化

※ 高齢者や基礎疾患を有する者、医療機関、高齢者施設、障害者施設、特別支援学校 等

感染力の強さ(拡大の勢い)とまん延防止策

※ 東京 iCDC 疫学・公衆衛生チーム
中島一敏先生提供資料より一部抜粋

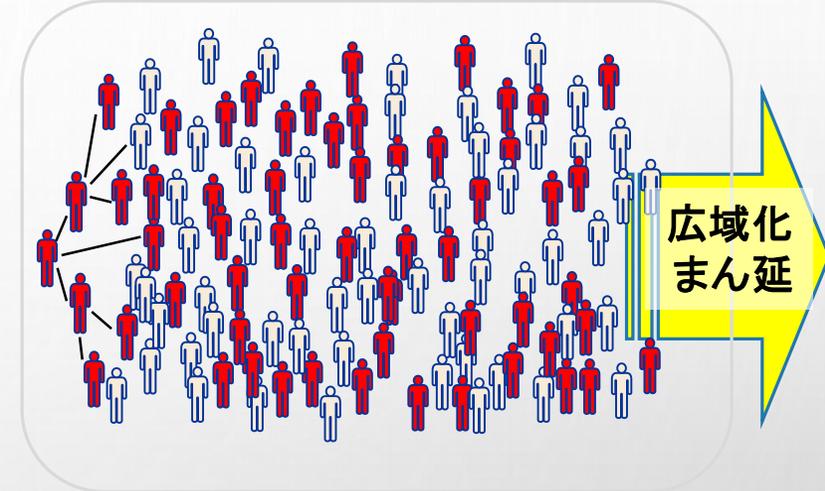
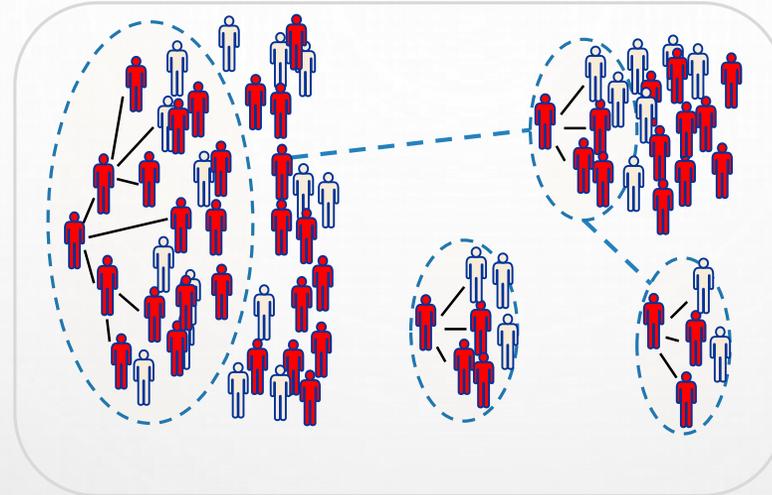
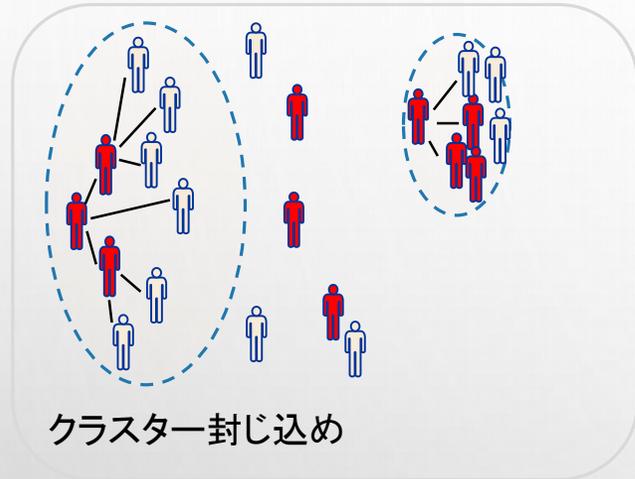
何も対策をしない場合



地域（生活圏）内の感染拡大防止策の考え方

※ 東京 iCDC 疫学・公衆衛生チーム
中島一敏先生提供資料より一部抜粋

感染者 接触者



【少数の散発例～集団発生】

- ・基本的な感染予防の徹底
- ・早期発見・早期封じ込め
- ・医療・保健所機能強化支援

【症例数増加、医療・公衆衛生の逼迫】

- ・選択的接触抑制策（時短営業など）
- ・クラスター封じ込めの優先順位
- ・医療・保健所支援
- ・福祉施設対策/医療関連感染予防強化

【まん延状態】

- ・行動抑制強化、Stay Home
- ・生活支援
- ・（緊急事態宣言）
- ・「命を守る医療」の維持
- ・限定的なクラスター対応（医療機関・高齢者施設など）

社会経済活動

東京 i C D C 専門家による意見

- 現段階はクラスター対策ではなく、重症化しやすい者への迅速な医療提供が重要である
- 「命を守る」という観点から、保健所が対策の重点を置くべき対象は、高齢者施設等、ハイリスク者が多数いる場所・集団である
- 市中の感染拡大防止対策は、行動制限等に対処すべき
- 臨時対応は、今回限りというものではなく、今後のさまざまな対策との組み合わせの中で、繰り返していく必要がある

臨時対応 終了の目安

新規陽性者数※ 及び 医療提供体制等 の負荷を勘案して、総合的に判断

※ 新規陽性者数の目安：

国が定めた感染状況の指標のステージⅢ相当

(都に当てはめると新規陽性者1日あたり約300～500人程度)